



# ソ連邦抑留記

黒澤隆也

さて最後に食料とポーター云々の話だが、何カコロリ(労働)の話が私共に支給になつて、腹のへることにされる主食は大麥、燕麥、豆、等、雜穀類で一日の定額四五〇瓦、時には米の配給もあるがこれは数量も少ないので主に粥や病人に與へて丈夫な者は出来るだけ粥を喰ふこととしていた。粥食としては野菜(主として馬鈴薯)その外はキャベツ、人参、トマト、玉ねぎ、赤大根等、六〇瓦以内八〇瓦、魚は五瓦と定められておりその外に調味料として少量のバター、鹽等が支給された。尚毎朝黒パン三〇〇瓦と砂糖三〇瓦、標準一五瓦に紅茶五瓦と云つたような特殊の支給もあつた。これが私共の唯一の楽しみとなつて、私共はこれら主食食糧を調理してカシヤ(かゆ)とスープを作り毎食七〇瓦乃至九〇瓦程度の食事をとるわけであるが、労働の烈しい時にはとても腹がへつてやり切れぬ。お齒磨きに云はせると大体一、四〇〇から一、八〇〇カコロリ位になると

といへばそれ迄の話だが、人間、腹がへると余程の大人物でない限り立ちたたり、悶てた考へを起したりするの論中には立派な人物も居つて之の痛むなりぬ人々を心の糧を與へて長き指導をして、人もあるにはあつたが、大部の人々には毎日の食生活が唯一最大の關心事でありそれ以外には他の何事も耳に入らぬという有様であつた。私は給食のことに付ては人知れぬ苦勞と努力を費して居たのであるが「衣食足りて禮節を知る」といふ言葉を今度の抑留生活でシシシと味はせられ、如何に良き指導者が精神的指導に努力をしても集團生活に於て大家を馴はれて來ない、人間の社會生活に於て「物心一如」といふことが最も重要な考へ方ではなからうか。「エイコラ」や「エイコラ」といふホルガの唄を音響する。單なるロシア民謡として聞き流されるかも知れないが、實際にホルガの如く「エイコラ」を考へて來た身にして他人事とは感じられない、このように私共のラ

ポーター(労働)はホルガ流の森林伐採から撤出、いかだ流しや鐵道工事、ソボズ(國營農場)やコロボズ(集團農場)の農事手傳いや、工場勤務それから收容所内外に於ける總ての自活作業等と病人以外の總ての、はな天々の労働に従事して、はな天々かざる者食うべからずの體則は吾々抑留者にも例外なき適用された。併し吾々はみな良く之のラポーターを頑張つた、私は異様に於てひたむきにラポーターに邁進して居る同胞の姿に幾度か敬けんな氣持に打たれたかも知れない、嘗てを忘れて労働に勤んで居る人々の姿は神々しいものである。全くラポーターの點では同じ抑留者である歐州各國の人々にも又は「ホルマ」(労働基準)を與へられたといふ連邦の人々にも決して負けなかつたと思ふ。ラポーターとホルマのこと、ホーズやコルホーズのこと、その他色々見たいと思ふこともあるが本稿が余り長くなることを考へて後日に譲ることとした。

ともあれ、私共は之のよきな生活を續け私共にもメモリーの夢が實現し願ひの郷里に歸ることが出來た。そして今私の内親、親戚、知友は勿論、蘇聯の從つてから愛護を寄せて居る、有難いことだ。併し多數の中には切角もあつても思ふに、不幸な人々もあることであらう、又々モイを夢みながら異境の地で求年も抑留生活を送らねばならぬのだ。たと吾々の誰しもが抑留期間に考へておいたことは一日も早く歸つて祖國再建の爲に挺身したい、いやみかた、急願であつた。吾々は決して社會の好黨に於て一日も無縁に過ぎようとは誰しもが考へておかない筈だ。願はくばこのような氣持で下され新しい希望を與えて、堅實な衛生の第一歩を愉快に踏み出させていただきたい。切に希望するものである。終りに今年も亦隆冬と寒いながらシベリヤや北歐の地で頑張つて居るであらう、残された人々の幸福と一日も早く歸還を祈りつゝ本稿をおさめようと思ふ。(了)

末記(昭和二十一年十一月)

## 優女

主演 山田五十鈴  
20日 第二イワキ

松井須磨子... 山田五十鈴  
島村抱月... 土方與志  
夫人伊都子... 赤木 明子  
娘 那子... 千石 規子  
伊都子の母... 藤田 房子  
水島 哲夫... 伊豆 肇  
大久保博士... 進藤英太郎

「例の松井須磨子を描いた作品」東寶の製作  
キャスト

研究所の講師として、又、抱月の存在は大久保博士と非難される新劇界の盟主であつた。だが世間人間の解放を説く抱月も實生活に於ては愛子の身として、夫人伊都子との對立養家のきつ抗しに一夜おろし、抱月は一生にかながな、正子の演劇に、對する異様な情熱に惹かれて抱月を止すに當り、演劇台に明せんと密かに思つて、その機軸は遂に研究所卒業記念公演に試演すべし、アブレンの役を止すに與へた事として、開始した。殊に須磨子の、

「復活」の公演は從來の新劇界をいよいよ始め、客席に新劇の面目を一掃させる大成功をおさめることが出来た。

この成功により藝術界は成的に完全に立直し、座長の爲の稽古藝術クラブを新築した。

心は神として  
肉體は惡魔

今ぞ放つ  
最大の傑作巨篇

日本映畫界  
最大の傑作巨篇

山田五十鈴の演技

「復活」の公演は從來の新劇界をいよいよ始め、客席に新劇の面目を一掃させる大成功をおさめることが出来た。

この成功により藝術界は成的に完全に立直し、座長の爲の稽古藝術クラブを新築した。

心は神として  
肉體は惡魔

今ぞ放つ  
最大の傑作巨篇

日本映畫界  
最大の傑作巨篇

山田五十鈴の演技

遂に登場  
二十日 第二イワキ

内 郷 第二イワキ  
電線十番

「復活」の公演は從來の新劇界をいよいよ始め、客席に新劇の面目を一掃させる大成功をおさめることが出来た。